

## ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

□調査期間 令和3年12月6日～12月17日

□調査の趣旨 ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和とも訳され、ワーク・ライフ・バランスが充実することにより、一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、家庭や地域生活においても人生の各段階に応じた多様な生き方が選択・実現できると考えられています。ワーク・ライフ・バランスについて、皆様のご意見をお聞きます。

□対象者数 1048 人(令和3年12月6日現在)

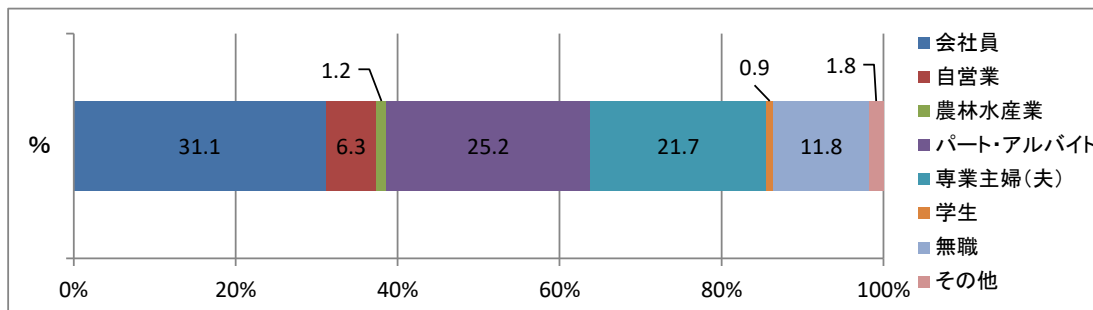
□回答者数 762 人

□回答率 72.7 %

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

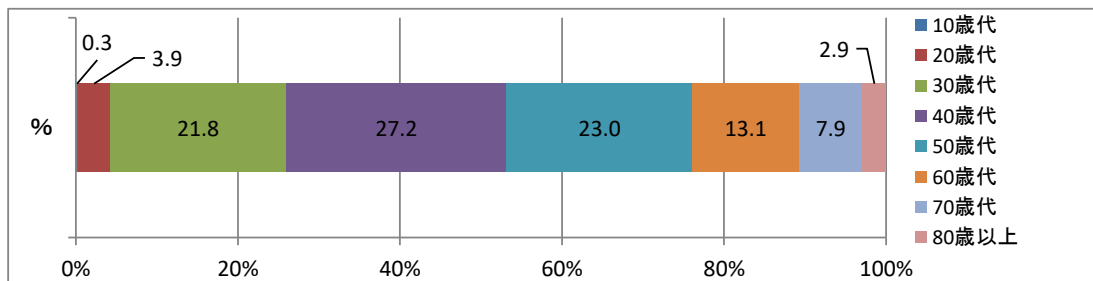
### 【職業】

内訳	人数	%
会社員	237	31.1
自営業	48	6.3
農林水産業	9	1.2
パート・アルバイト	192	25.2
専業主婦(夫)	165	21.7
学生	7	0.9
無職	90	11.8
その他	14	1.8
合計	762	100.0



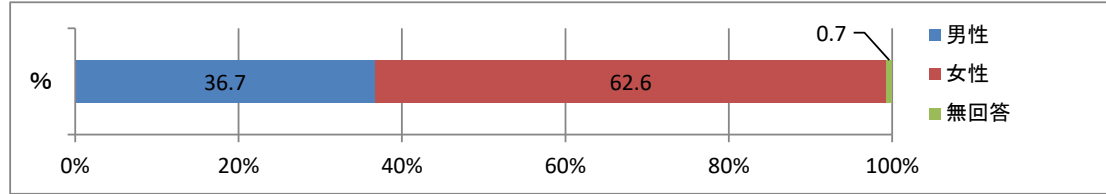
### 【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	2	0.3
20歳代	30	3.9
30歳代	166	21.8
40歳代	207	27.2
50歳代	175	23.0
60歳代	100	13.1
70歳代	60	7.9
80歳以上	22	2.9
合計	762	100.1



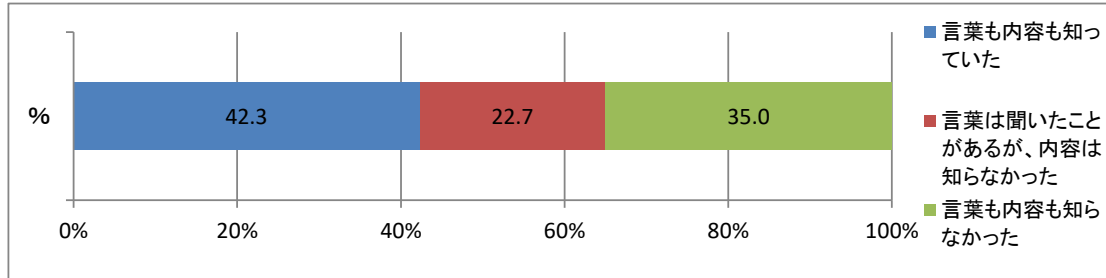
【性別】

内訳	人数	%
男性	280	36.7
女性	477	62.6
無回答	5	0.7
合計	762	100.0



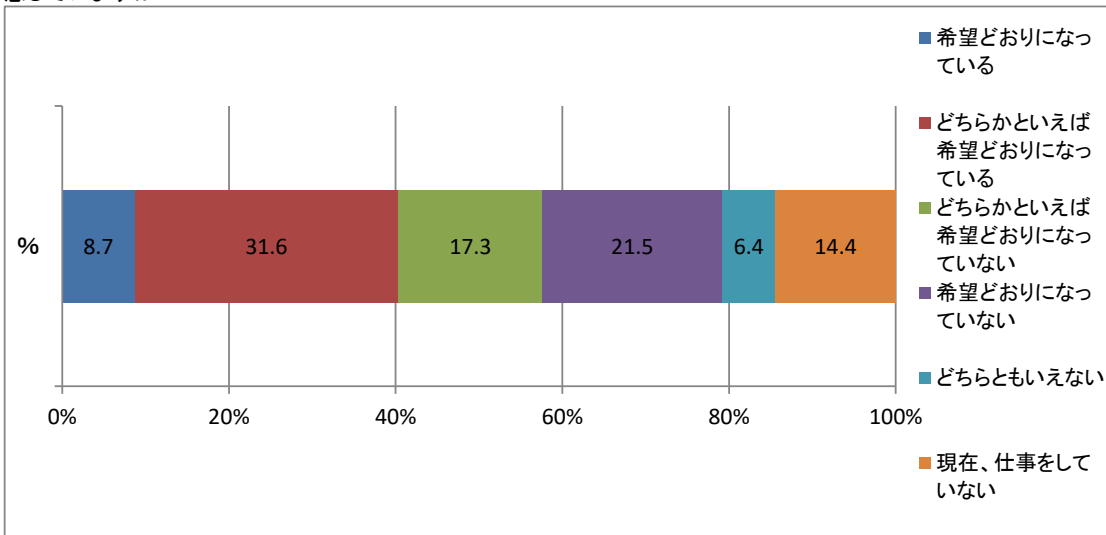
【問1】 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていましたか？

内訳	人数	%
言葉も内容も知っていた	322	42.3
言葉は聞いたことがあるが、内容は知らなかった	173	22.7
言葉も内容も知らなかった	267	35.0
合計	762	100.0



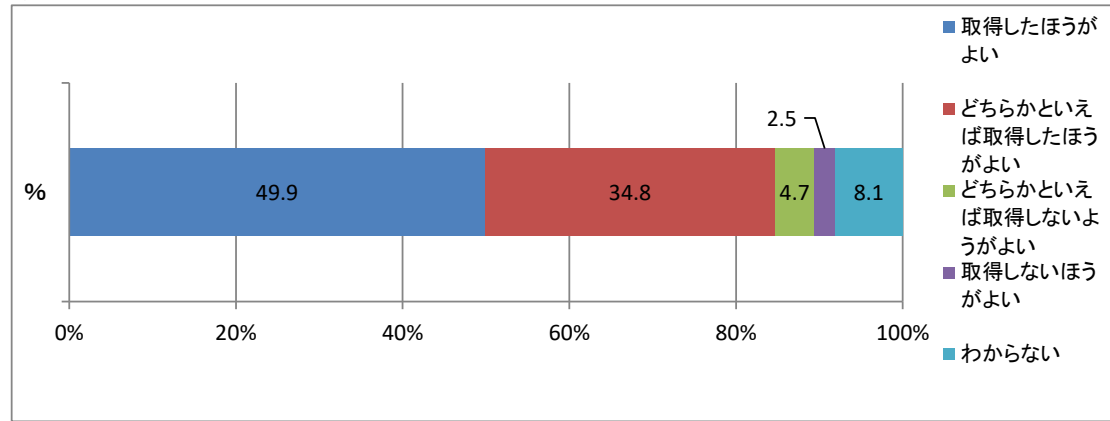
【問2】 現在、自分の「仕事」「家庭生活」「自分の時間」のバランスについてどう感じていますか？

内訳	人数	%
希望どおりになっている	66	8.7
どちらかといえば希望どおりになっている	241	31.6
どちらかといえば希望どおりになっていない	132	17.3
希望どおりになっていない	164	21.5
どちらともいえない	49	6.4
現在、仕事をしていない	110	14.4
合計	762	99.9



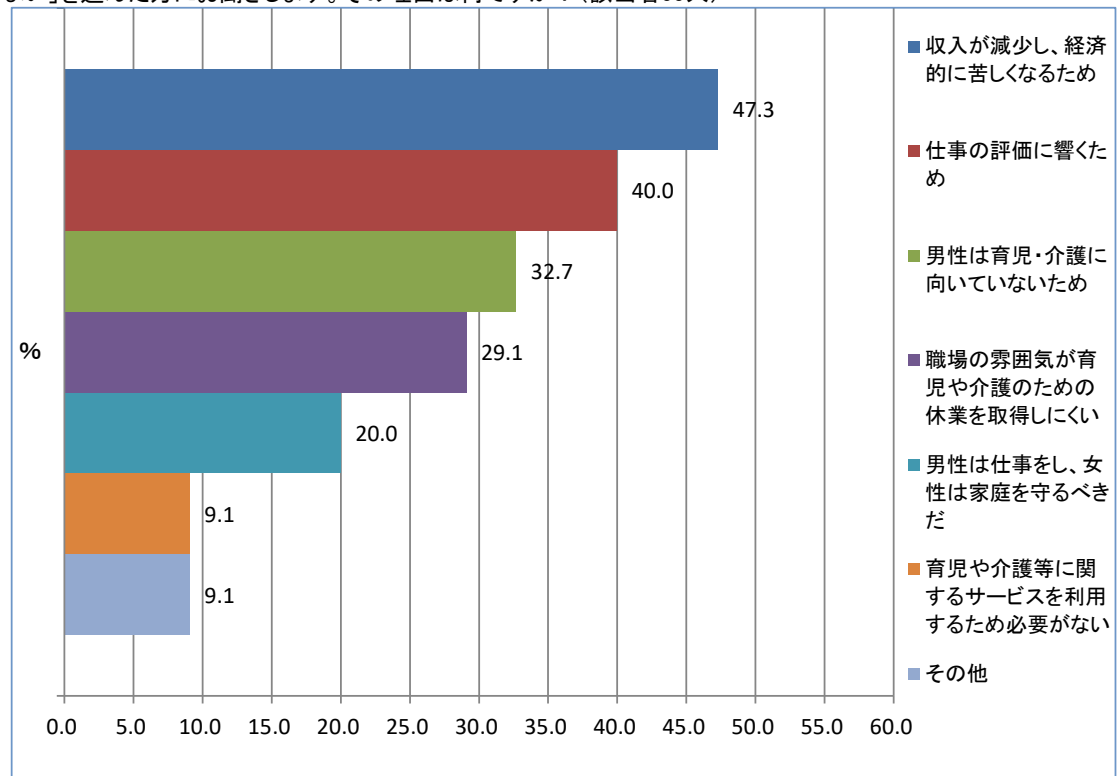
【問3】 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どのように思いますか？

内訳	人数	%
取得したほうがよい	380	49.9
どちらかといえば取得したほうがよい	265	34.8
どちらかといえば取得しないほうがよい	36	4.7
取得しないほうがよい	19	2.5
わからない	62	8.1
合計	762	100.0



【問3-1】 問3で「取得しないほうがよい」「どちらかといえば取得しないほうがよい」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか？（該当者55人）

内訳	回答数	%
収入が減少し、経済的に苦しくなるため	26	47.3
仕事の評価に響くため	22	40.0
男性は育児・介護に向いていないため	18	32.7
職場の雰囲気が育児や介護のための休業を取得しにくい	16	29.1
男性は仕事をし、女性は家庭を守るべきだ	11	20.0
育児や介護等に関するサービスを利用するため必要がない	5	9.1
その他	5	9.1

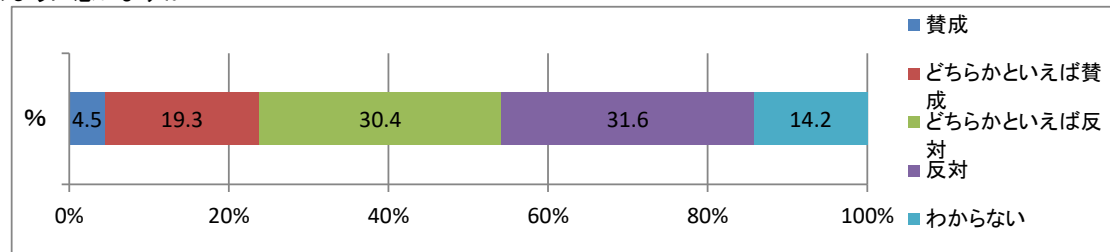


【問3-1-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者5人)

- 知り合いに何人か旦那が育児休暇をとれたけど休暇が短く、子育てに関しては子供のお手伝い程度で意味ないって、むしろ旦那のご飯の用意が増えてかえって疲れると言うのを聞きました。3ヶ月～半年とか休暇取れるのなら、夫婦で子育てできて、とても良いと思います。1ヶ月ぐらいなら要らないのではとも思いました。
- 仕事に支障が出る人が多いから。
- 休暇だけ取り家事育児をしないのであれば負担だけが増えるので、仕事しててくれた方が負担が少ないと感じる。相手次第だと思う。
- 理由1)何事を行うにも、与えられた事項に専念してこそ大きな成果に結びつくものである。中途半端にすると全く成果に結びつかない。その結果、全く面白味が無くなりその行為を投げ捨ててしまうことになる。  
理由2)女性には自分の身から生まれてきた我が子の面倒を見る豊かな『母性愛』があり、男性には外に向って進む大きな『目的実現に向っての突進力』がある。  
以上2点の理由により男性は仕事に、女性は育児に命を懸けて専念すべきである。それにより大きな幸せを得られるものである。尚、介護はその大変さに応じて夫婦助け合い実施すればよい。
- 育児は大変なのは分かるが、会社を休みたいから育児休業を取得する者も多い。育児休業の本旨を理解させた方がいい。

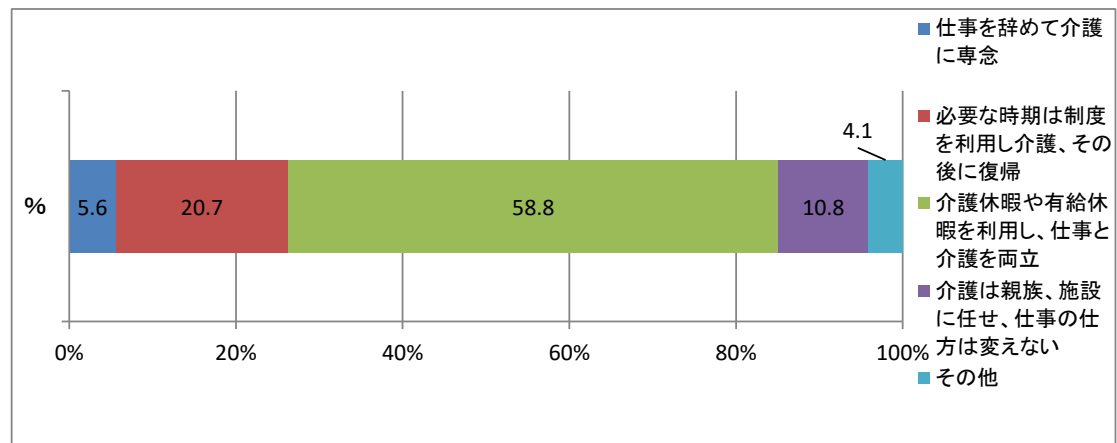
【問4】「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべきだ」という考え方についてどのように思いますか？

内訳	人数	%
賛成	34	4.5
どちらかといえば賛成	147	19.3
どちらかといえば反対	232	30.4
反対	241	31.6
わからない	108	14.2
合計	762	100.0



【問5】あなたが介護をするようになった場合、どのような働き方が望ましいと思いますか？なお、現在、仕事をしていない人、介護をしていない人は、そのような状況に直面したものと想定して回答してください。

内訳	人数	%
仕事を辞めて介護に専念する	43	5.6
介護が必要な時期は休業制度を利用して自分が介護をして、その後仕事に復帰する	158	20.7
介護休暇や介護のための短時間勤務などの支援制度や有給休暇を利用しつつ、できるだけ働きながら仕事と介護を両立する	448	58.8
介護は配偶者やパートナー、親族、施設に任せて、仕事の仕方は特に変えない	82	10.8
その他	31	4.1
合計	762	100.0

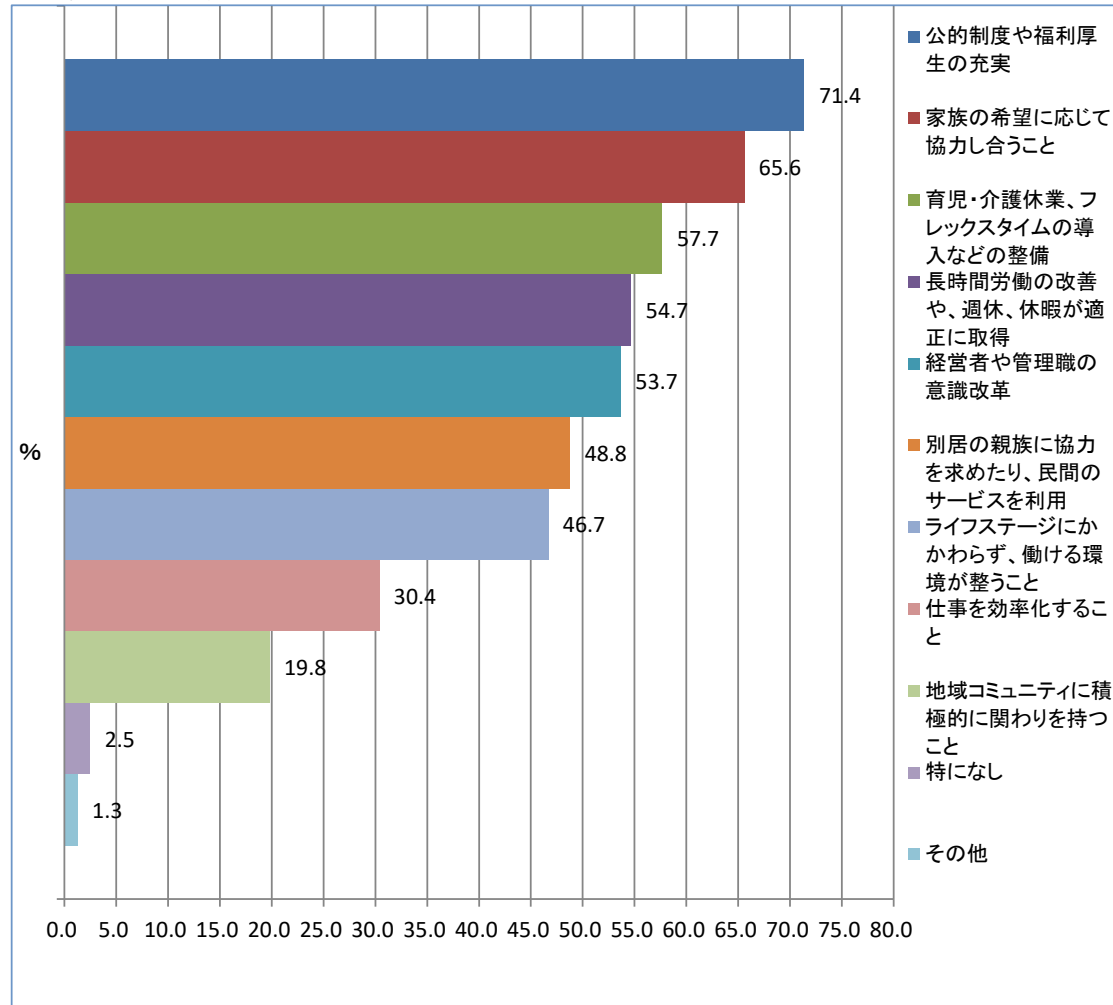


【問5-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者31人)

- 配偶者以外であれば施設を使う。
- 介護は家族全員で担当。公的手段も最大限利用して負担を減らす。被介護者も、甘えるだけでなく、自分で出来ることはして自立心を無くさない。誰かが負担を一身に受ける事がないように協力する。まずは、各介護する人に負担が最小限で済むように、話し合いが最重要課題である。
- 介護ができる勤務体系の職場に変わる。
- 変えられる制度を使わせてもらえない。
- 医師、ケアマネ、介護士、家族、被介護者によるミーティングにより家族でないとできない仕事(ミニマム・ワーク)の環境を決め、それに応じた仕事の仕方を選択。選択によっては転職等も考慮すべき。
- 自分の親の場合は、介護休暇や介護サービスを利用しながら仕事を続けます。配偶者の親は、配偶者が考えて対応することだと思います。
- やってみたいとわからない。自分を含め、そういう状況になった(介護している)例が身近になく、本当にわからない。
- 現在パート職なのでシフトを調整してもらう。無理なら仕事を変える。
- まだ身近にとらえられておらず、どれが望ましいのかまだ分からない。
- できるだけ、資金的な援助をして外部の方を頼って自分では介護しないようにし、仕事を続ける。
- 完全に介護施設に預ける。
- 介護は期限がない。家族、身内などが介護に専念するや、仕事と両立するなどは長続きしない。仕事の仕方は変えない、ではなく出来ることはして、施設に任す。
- 介護保険制度を利用して施設などに託す。
- 仕事と介護を両方していく。
- まず、要介護者の状態を、介護保険の制度に照らして、使える公的制度を最大限に利用する。家族の介護は家族だけに負わせるものではない。
- 施設に任せて、仕事を継続する。
- しかるべき施設や介護サービスを併用します。
- 働いて得たお金で介護サービスをできるだけ利用しつつ自分でも介護する。中小企業勤務のため時短や介護休暇等の申請は無理。

【問6】 ワーク・ライフ・バランスが実現できる社会をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか？

内訳	回答数	%
公的制度や福利厚生 の充実	544	71.4
家事・育児・介護などを家族の希望に 応じて協力し合うこと	500	65.6
育児・介護休業、フレックスタイムの導 入などの制度の整備	440	57.7
長時間労働の改善や、週休、休暇が適 正に取得できること	417	54.7
経営者や管理職の意識改革	409	53.7
必要に応じて、別居の親族に協力を求 めたり、民間の事業サービスを利用した りすること	372	48.8
結婚・出産などのライフステージにかか わらず、働ける環境が整うこと	356	46.7
短時間でも成果が得られるよう、仕事 を効率化すること	232	30.4
地域コミュニティに積極的に関わりを持 つこと	151	19.8
特になし	19	2.5
その他	10	1.3



【問6-1】「その他」と回答された方は、詳しくご記入ください。(該当者10人)

- 介護される方の意識改革も必要。
- 専業主婦が否定される世の中もおかしいと思う。
- 企業から命じられる転勤の原則廃止。親族が近くで手伝った場合のインセンティブを公的に担保すること。
- 日本人の意識改革
- 職種によって使えない現状がある、公務員みたいに休みが取れない。
- 給与の安定化。
- 当事者の能力と努力が足りなければ仕方がないという場合もある、という理解が必要。
- 男性の育児休暇など、制度だけ作っても実際には人員が慢性的に不足し、取得できない。一人が取得することで、同僚の仕事量が増加して残業が増えるなら、実質取れないし、取っても残業費の無駄使いになる。残業ゼロが当たり前になるよう、推奨し支援してほしい。
- 本アンケートの設問は「親戚や近所を頼れば良い」とも読み取れるが、親戚や近所の詮索を嫌って、助けを求めるのを躊躇する人も、多くいると思う。このアンケートからは、菅政権下の自助・共助・公助の方針発表時に受けた、イヤな感覚を思い出す。
- 今までの慣習に引きずられないよう、周りの意識改革を進める。例えば制度として介護保険があるが、介護保険を利用することを陰口をたたかれたりする。

【問7】 ワーク・ライフ・バランスについて、ご意見等ございましたら、ご記入ください。(任意)

- 介護のために仕事を辞めるのは、あらゆる方法を検討した後、最後にした方がいいと思います。目の前の人のために仕事を辞めたと思うと、介護をする方も、される方もつらくないと思います。
- コロナ禍で仕事が激減し収入すら少なく物価は上がる。バランスなど保てない。
- 解決策があるのかどうか分からない。でも、色んな方法が模索できるような環境を用意しておく事は大事なかなと思います
- 休みがとれない。
- 画一的でなく、当事者家族が問題ないなら、外野がとやかく言わなくていいと思う。
- 人生のステージ段階において、自分が充実出来る生活を営める様、柔軟な思想と行動力が求められると思います。
- ワークとライフとは本来、切り離せないものであり、「ワークとライフのバランスをとりましょう」という考え方自体、すでに時代遅れで有効性が低いと感じています。カタカナ用語の是非は別として、「ワークインライフ」の方がしっくり来ると思います。
- 前の職場は有給があっても有給を取ると人が多いと思われ、人員を減らされるから取るなど、上司に言われ取れませんでした。日本の職場は仕事と生活の調和なんて考えてなく会社の利益を考える人ばかりです。
- 法整備が必要と思う。
- 日本全体の問題だと思います。和歌山が最初にそういう社会になるよう取り組んでいただきたいです。
- 今回のアンケート、自営業者(経営者)には、介護休暇、時短勤務等、用意された回答例に???な事例ばかりでした。
- 理想と現実がかけ離れていて難しい問題だと思います。
- 仕事と生活の調和は、職場と個人の話なので、行政が介入できることはそう多くないのではないかと感じます。ただし、介護に関しては特に環境整備が非常に重要だと思います。地方公共団体として、和歌山市の実情に合わせた制度設計をお願い致します。また、より地域に合わせた環境整備を行うために、中核市として域内分権に取り組むのも良いのではないかと思います。
- 介護は時間とお金も必要、休むと給料が減る。福祉の充実が必要
- なかなか難しいと思います。親の介護が始まると、どうしても仕事や自分の時間を妥協しないといけなくなります。したい仕事、自分の時間を取る為に公的制度や福利厚生の利用ですが介護される側が使おうとしない。子供には迷惑かけたくないとはいいますが、介護も病院通いも子供に任せっきりの現状です。人の目を気にするみたいです。子供いるのに、公的制度を使ってるの?って思っている年配者が多い。なのでワーク・ライフ・バランス満足してる方はいないと思う。
- 大手の企業で有れば問題無いが、中小企業ではまだまだバランスが取れる働き方はできない。
- 結局は人それぞれなのでなんとも言えない。
- この言葉がもう当たり前の世の中、社会になってほしい。
- 現役時代、育児休業とられた男性社員は複数います。これは、大手企業だから出来たこととも思います。意識改革が重要ですが企業規模によっては難しいでしょう。介護も同じです。生産性においても大きい課題とは思います。
- 親の介護も終わった。これからは、自分たちの介護が問題になる。
- 育休中の経済的な支援が充実すると、取得率も上がると思う。

- 家族や周囲の協力が職場の理解が、必須だと思います。
- 様々な家庭の形態があるので、正論はないと思います。ただ、職場・社会の意識改革は必要だとは思いますが。
- 社会全体が調和を保ち、少しずつ生活環境が向上していくためには、考えるべき課題だと思う。
- バランスが難しい。
- 何が正しいというのはないが、自営業であると悩みを相談したり情報を得ることもできないため、雇用形態にとられず、相談しやすい環境が欲しい。
- もう定年退職して10年以上経つが、当時にこのような考え方があったらよかったと思う。
- 共働きしなければ生活できないが、子供2人育てながらフルタイム2人は厳しい。寝る時間も子供と触れ合う時間も少なすぎる。つらい。
- 和歌山市役所が率先して和歌山市発注業務工事等を請け負っている業者のワーク・ライフ・バランスを、満足できるように配慮すべきである。自分たちの勉強・能力不足、発注ミス、組織内意思伝達不足による負荷を業者に押し付けてはいけない。でなければ和歌山市役所の仕事を請け負う業者はワーク・ライフ・バランスを諦めなければならない。和歌山市役所の仕事ぶりは数十年変わらない。ここ1年ほどでようやく変わってきたような気がする。今の市長には頑張ってもらいたい。
- 何よりもまず企業の意識改革から進めるべきだと思います。
- 人生の中で、大なり小なり介護する側される側にどの人もなる。これからは各企業がそれぞれの社員やその家族のための施設整備に取り組むべき。
- 国の支援と協力も必要です。
- まだまだ「ワーク・ライフ・バランス」と言ってるだけで実現は出来て無いと思い、感じます。
- 個人と会社の意識改革が必要だと思います。社会としては、安心できる仕組みをつくることですね。本当に困っている人の支援システム。コミュニティでカバーする活動を支援するなど。
- 満点の手段はない。ただし既得権益に関わる規制等がバランスの改善に害となることもある。
- 夫が育休を取るよう、上司から言われたことがありました。ですが、取得すると給与が何割か減ってしまうという現実が痛くて取得を諦めました。お金がないと暮らしていけないので。
- 女が働いて、男が育児をする選択肢もある。収入の問題かも。介護の話では、ターミナルケアの推進、死ぬ権利もあっていい。
- 現在、仕事をしていないが、近々来るであろう家族の介護のことを考えると、なかなか新しい仕事を探すのをためらってしまう。自分の人生も充実したものにしたいし、ワーク・ライフ・バランスについては、家族や社会の理解が必要だと思う。
- 多様性の時代になる。型にはまらずそれぞれのベストの生活を選択できたら良いです。そういう方向に進んでいくと思う。
- 女性が主に負担が大きく犠牲になっているため、男性も協力出来るように、行政、教育、社会が変革出来るよう、変わって行って頂きたい。まずは、他人任せにせず市政から変わることを期待したいです。
- 夫が協力してくれないから、社会制度の充実を望む風潮がありますが、まず、家族で話し合い、今ある制度を活用すべきではないでしょうか。夫や妻には何も求めず、なんでもかんでも社会に求めるのはどうかと思う。
- コロナ禍によるワークライフバランスへのシフトについて、和歌山では各企業における対応があまり積極的ではないように思われるため、県市の方からの何らかの働きかけも必要でないかと感じます。
- どんなバランスがよいのかはひとりひとり違うし、ある時点でいい感じだと思っても、それでよいのかわからない。それを漠然と意見を求められても答えようがない。
- まだまだ日本の働き方では実現は困難
- 要介護にならないレベルだけど介護が必要な家族との生活で仕事が出来ず困っています。短い時間で短い日数でも働ける会社が和歌山市にはなくて、結局単発や派遣になるため長期雇用にならず不安でしかない。
- まずは行政職員の残業ゼロを目指し、秀でた民間企業のモデルケースを示してはどうか。
- 様々な視点から今流の制度設計や考え方に基づき行政に生かして欲しい。
- メリハリのある生活、仕事を心掛けることが大切。
- 職場全体の意識改革が、必要であると思います。
- 職場の人員が減って、売上はコロナ前に戻らないのに仕事量は減りません。忙しくて業務の効率化まで考えが及びません。
- 男性もそうだが、同性である年配の女性がもう少し若い女性に対しての配慮が必要。自分たちが過ぎた状態を例にあげてわがままなど言っただけでは、ワークライフバランスが進まない。
- 現実的には非常に難しいと思うが、社会全体がその方向に向かうように政治的な配慮が必要だと思っています。
- 各家庭によって状況は異なるので、「男女平等」という言葉にとられず、家族と話し合っただけでプランを立てていきたい。介護休暇をとりたくてもとれない仕事の人もいるので、公的な支援やサービスを利用しやすいようにしてほしい。
- 介護休暇を社内規定で、形だけあり実際には取得できない。
- 会社でも女性だけ仕事と家庭の両立について研修を受けているが、男女関係なく受けるべきだと思う。
- 周りの理解や意見も必要だが、自分のやりたいようにやれる環境を最初にはっきりと意見し作り、動けるようにしたほうがより良く過ごせるように思う。
- ジェンダー差別が解消され、日本国民自体がもっと豊かになり、国中がゆとりを持てるようになれば、ワーク・ライフ・バランス自体ももっと上手に行くようになるだろう。(現状は程遠い状況にあるが…。)
- まず 個々の意識を変えること。年代により考え方の違いが大きいと思います。介護サービスのさらなる充実、それに従事する人の給与を上げなくては今のままでは低いと思います。



- Q6の項目一つで完成できるものでなく、すべての項目が遂行されてこそ、ワークライフバランスが実現出来る。
- 甘やかしにならないよう注意しなければならないと思います。「お前じゃないんだよな」って心で呟きながら笑顔でオッケーを出す管理職の方のご苦労も理解できます。
- 家族内で商売をしているのですが、両親が介護になれば商売が出来なくなります。そうすると収入は減る…雇われる側は有給など手厚いサポートが受けられ、とても不公平だと思います。個人事業者向けにもこう言った制度があると良いなと思いました。
- 仕事を休むと同僚に迷惑がかかる。
- 中々バランス良く生活出来れば良いのだけど、家庭環境により違って来る。年齢も関係してくる。
- 和歌山は最低賃金が低いから長時間働かなければ子供を養っていけない。その為、子供との時間をもう少し増やしたいが働かなくてはならない。求人募集をかけても、若者が少ないから、若者は時給がよくオシャレな仕事に就いてしまい、常に人員不足である。学童施設が足りない所があり、学童が続けていけるか不安である。
- 男らしさ、女らしさ、など、旧態依然の考え方を少しずつでも変えていく社会を目指して、機会があるごとに広報などで周知し続けることが必要だと思います。
- 過去(ふた昔前)の話を言っても仕方ないことですが、核家族が根本原因の1つだと思います。更にそうってしまった要因は首都圏一極集中が益々加速していった結果でしょう。官庁や金融機関が情報を効率よく得るのに適しているから自然と集中したのですが、情報を分散できる仕組みが出来れば、仕事も介護も家族・親族で支えあえるのでは無いでしょうか。
- 社会が色々な休暇を取りやすい環境になるようになれば良いと思いますが、まだまだ取りにくい職場が多いと聞きます。
- 生活スタイルは人それぞれで、時代の移り変わりもあるのに、働き方や日常生活はまだまだ古い価値観に支配されている部分が多いように感じる。柔軟性が大事だと思うし、もっといろんな選択肢が受け入れられる社会になってほしい。
- 仕事に偏りすぎると大変だと言いますが、私は仕事が大変であっても楽しいので、仕事が楽しくなるように成果が上がると良いと思います。
- 役所が積極的に実施が必要。
- まだまだ浸透していない部分があると思うので 今後、行政、民間の関連施設など積極的に取り組んで仕事、育児、介護共にバランスが図れるように進めて行って欲しい。
- 仕事にやりがいもないし、頑張っても税金を納めても何の得もない。正直者が損するような、行政の仕組みが改善してほしい。
- 長生きするようになって、ありがたいのだが、ワーク・ライフ・バランスにも非常に影響している。そもそも子どもが増えないのだから、バランスが保てるはずがない。
- まだまだ育児、家事、仕事を両立するのは難しい環境だと感じます。現在その3つをこなしていますが、給料面で満足出来ていません。3つのバランスをとれる仕事だとアルバイト程度です。もっと仕事の選択肢が増えると良いと思います。
- まだまだ男性社会、女性が家事をするのが当たり前の社会だと思うので、意識改革が何よりも大事だと思います。
- 教育現場も、年々、労働環境が劣悪化するようになり、子や孫を見ていて思います。たまたま子や孫は、教員ですが、地方公務員が、ブラック産業のような働き方をしないで良いようになれば良いと思います。皆が、自分らしくイキイキ働いて、オフの生活も充実出来れば良いのですが、それが、結局、和歌山市の若年層の成婚率を上げ、ひいては少子化解消に繋がるように思います。
- 格差社会なので働くだけで精一杯な人が多いと思う。バランスが取れる人は恵まれている。
- 制度を決める意思決定の場に女性が少なかったためか、男性優位の制度になりがち。男性はみな女性のお母さんから産まれたという事実を忘れないでほしい。
- 中小企業では有給休暇でさえ満足に取得できない環境にあります。介護休業や男性の育児休暇などは言葉のみが一人歩きし、実態とは全くかけ離れていると感じます。管理職の意識改革は期待できないため、行政の介入やさらに踏み込んだ指導をお願いしたいと思います。誰もが平等に取得できる権利を懇願します。
- 社会福祉の充実した所に住みたい。和歌山を是非そんな安心できる所にしてください。
- 子育てするにはお金がかかります。しかも子供が大きくなればなるほど費用がかかります。大学費用や下宿代などを捻出するため夫婦で働かなくては生活できません。ワークライフバランスなんて考える余裕がありません。
- 情報量が少ない。誰もが行政に頼れる社会が必要。何故なら、国民は税金を納めてる。多額税金をきちんと社会の為に使って欲しい。国民を助ける社会を望みます。
- 仕事の効率化は理想であるが、なかなか実現は困難。当面は経営者、管理者の意識改革というか、管理者が率先してワークライフバランスを意識した行動をとっていただくことを期待。
- 経営者や管理職の意識改革が何より大事な。それと週休、休暇が適正に取得できる職場の環境かな。
- 本当に必要な場合はそういう休暇をとれば良いけど、制度があるから、安易にと欲しくない。
- 地域に馴染める様に自治会で活動をして欲しい。
- そもそも、男性が育児休暇や介護休暇を取ることに、という質問自体もおかしい。育児休暇を取る男性は素晴らしいという風潮があるからだと思うが、それなら社会で活躍する女性は素晴らしいと逆に女性を褒めてほしい。女性が褒められる社会がないから、ワークライフバランスも整わないと思う。
- 仕事とプライベートを一体として捉えて、時間配分を調整できるよう、在宅勤務へのサポート助成金制度等の充実が必要だと思う。
- 男性、女性に関係なく残業を前提とした世の中にしすぎです。一日の労働時間が8時間以下なら問題は解決しやすいと思います。
- 職場の上司の理解がないように感じます。
- 時短制度を使っていますが仕事の内容は変わらないので、短い時間で同じ内容をこなすことはなかなか厳しいです。子育てにしても介護にしても女性の負担が大きいです。
- 8時間、月20日働けば地道に生きていける社会を望みます。
- 時代がワーク・ライフ・バランスを求めている。

- 結婚後も仕事を続けられる育児や介護の環境を作ることが大事だと思います。
- 現在のご時世、働きやすい環境になれていない。
- 家族の事情が変化しようとも、自分自身に使える時間は確保したい。
- 育児休業給付金の金額をあげて欲しい。オムツやおしり拭き、ミルクで月に1万ちょっとかかります。保育料も共働きだとすごく高いと思います。3歳未満も引下げして貰いたいです。
- 女性の社会進出を認めない、頭の固い人がまだまだ世間では多いです。しかし、若い人は男女でとても協力的です。頭の固い年配の人の意識改革を望みます。
- 家族、地域、職場の人といつも信頼関係を作っておくことが大事と思う。
- 経営者や管理職者が、従業員のワークライフバランスを安定的に保てるように、組織力の構造の見直しや、企業の持つ付加価値を高め、経営力強化を図れるよう社員教育に投資をもっと増やす必要がある。
- 男は仕事、女は家庭、週6勤務サービス残業、和歌山はまだまだ昔の古い考えの方が多く様に思います。年配の方の意識改革は本当大切だと思います。若者や女性が働きやすいように、多様な働き方があって良いと思います。
- 柔軟に、介護、育児などで、休暇を取ったり、仕事会社でも協力して、休みを取れるのは理想ですが、古い考えの方や、古い体制の会社では、気分良く自分だけが新しいやり方を取り入れるのは気を使い難い感じがしました。
- その時の状況で個人に合った選択をしていけばと思います。
- 仕事と生活のバランスは、自分を犠牲にすることなく北欧のような公助をもっと充実させるように工夫すべきと思う。このために税金を上げてもらってもやむを得ないと思う。
- 老人介護デイサービスの利用者の家族は働いている方や自分の時間が欲しい方など、預けている間に時間の有効活用をしています。私は在宅介護の経験もありますが、その時は無知で、ケアマネジャーさんも親身ではなく、仕事をしていないのにデイサービスを利用することが申し訳ない良くないのではなどを考えてしまい、本人も嫌がることもあり、利用せずに先の見えない介護生活に疲れてしまいました。でも今思えば、SOSを出して色々な制度を使い助けてもらえればよかったと思います。休憩をして心や身体をリフレッシュすることは悪いことじゃないと、介護者をがんばっている人に伝えたいです。ご家族を支援する制度がもっと理解され増えれば良いなと思っています。
- 限られた時間帯や条件で求職したいが、希望の条件設定で検索することができない。求職の検索方法を改善してほしい。
- 有給休暇をとらない人残業(含むサービス残業)をよくする人＝良く仕事をする人という査定がまだあるのでは？ワークライフバランスを上手くとる人を高く評価する評価制度をあらゆる機会に広報していくべきです。
- 実際、介護しないといけない家族が居るとフルタイムで仕事するのはとても難しいと思う。認知症とかトイレの介助が必要だと置いていけない。ヘルパーも限度があるからもっと活用できるようにしてほしい。
- 当たり前になるといい。
- 経済的、身体的に疲弊しない仕組み作りを行政主体に民間にも広げていく様な方式が望ましいです。
- うちの夫も育児が取れませんでした。人数が少ないこと、誰もとっていないからだそうです。言い出せない人も多いので、義務化してほしいです。
- 制度があっても意識改革がなされていないと利用されずに終わる。利用者も周囲もワークライフバランスへの理解を深め、対象者が利用しやすい環境を作るように自治体は企業に要請してほしい。
- 介護、看護が必要な現場の、声を聞いて欲しい。自分や家族が病気になったら、働き続けるのは困難だと思う。身体が持たない。病院とは、忙しすぎる職場。
- 現在、実際に育児をしながら介護をしています。デイケアに通ってもらったり、親族や家族の協力も得られて、介護している人の中では支援を受けているほうだと思います。でも、基本的には私が中心となって介護しているため、365日気が抜けませんし、市外へ出かけることも出来ません。ショートステイ等を利用したくても、親族の同意が得られなければ難しいです。それに、自分の両親も遠方で高齢になっているため、仕事をしたくても介護があと何年続くか、また新たな介護がいつ始まるかわからないので、職場にも迷惑をかけたくないので復職も諦めています。行政や企業の努力もありがたいですが、それだけでは解決できない問題も多々あると思います。でも、配偶者の会社では単発で介護休暇を取ることも出来、ケアマネさんも親身に相談に乗ってもらえているので、助かっています。使える行政サービスも色々紹介してもらい、利用できるものは利用させてもらっています。先日配布された高齢者向けのタクシー券は、認知症がありタクシーに乗せることが難しいため、使っていません。タクシーだけでなく、衣類や日用品や食品の購入にも使えるようなクーポンなら、より使える人が増えたのではないかと思います。
- いろんな家族形態がありますからそれぞれ家族間のコミュニケーションと成長過程の教育機会、公的機関のサポート体制の充実などの総合かつ長期に取り組んで、それを軸に社会風土の構築に。
- 育児休暇などはまだまだ欧米に比べれば少ない、国は消費税を無くし、国会議員全員の賞与や給料を大幅削減の4割削減し交際費や通信費は日割り計算で支払い、残りとは法人税や固定資産税を上げて得た税金で福祉や障害者お年寄りに支援する制度を作してほしい。
- 日本は休暇が取りにくい雰囲気があります。上の立場の人から休むときは休むことを示していくと、後輩も休みを取りやすいと思うので、そういう環境づくりができればいいのになと思います。
- 女性が働くのはまだまだ大変なことが多いです。やはり、女性が育児をし、男性はお手伝いするという意識があり、でも働く先では責任も伴うので、何かを犠牲にすることになり、古い社会、考え方が根付いていると感じます。
- 理想と現実の解離、このご時世難しいとは思いますが、言い続ける事が、寛容だと思います。
- 理想は、非現実的。和歌山の田舎ほど理解しないし、協力も得られない。地域性だと思う。こんな地域だから、子育て世代や若者が出て行く。

- 職場改善しないことには何もできない。特に民間企業においては。
- まだまだ仕事をしないと生活出来ないの、優先度は仕事になり調和が取れていない状況。近い将来両親も高齢になり、介護をしないといけないかもしれない。生活が優先になると経済的に苦しくなる為、今後が不安である。
- 男女それぞれの特性を考慮し公平な配慮が必要。
- 高齢化が加速している昨今誰もが直面する事柄なので、真剣に取り組んでいくべき事が必要かと思えます。
- 出産・育児については未だに女性の負担が多く、私的及び公的においてももう少し何とかならないかなと思う。まずは、男性側の意識改革が進むような本法を考えるべきだと思います。
- 年を取ってるが介護が必要ないと人との関わりが減り寂しく思う。
- もっと行政が、企業・国民へ発信すべき。
- 昔に比べてはだいぶ世間がいい方向に向かっている気がするが、企業に寄りまだまだ難しい場合もあるので行政からの働きかけが重要だと感じる。今は共働き世帯が多いので特に思います。
- 各家庭によって良しとするところが違ってくるものなので、職場や地域の理解が必要。個人の意識も重要。行政からのワーク・ライフ・バランスが大事というメッセージを常に発信してほしい。ただこの言葉、もっと分かりやすくないものではないでしょうか。
- なかなか今の社会ではまだ難しいこともある。
- 年齢的に、親の介護を1人で抱え込む友人が増え出し、仕事との両立は大変だと感じているところです。
- 女性にとって、現実のハードルはとても高い。頼りになるのは、やはり、実の両親でしょうか。
- 春から子が幼稚園に行くので仕事を始めようかと思っています。夫の仕事が忙しいので子育て・家事はほとんどが私がするのが当たり前状態で、私が仕事を始めても変わらない気がしています。男性の育児休暇が取れるようになるのはいいことだと思いますが、具体的に何をやるかの研修や説明会(出産後の奥さんと赤ちゃんのサポート)みたいなのもあればいいかなと思います。
- これからの世代に必要なことになってくるので応援していきたいです。
- 仕事をしないとのもワークライフバランスを考えた上で選択したことだから。
- 我が家は自営業なので、時間の融通が多少はきいたが口でいうほど簡単ではなかった。これは介護の事で無理に近いが、家族が話し合うとか民間のサービスを利用するなりしないと、肩にかかった人が疲れきってしまう。
- 夫の20代・30代の後輩が昨年末に立て続けに心不全で亡くなった。コロナで運動不足などあったのかどうかは分からないが、デスクワークでの働き過ぎは良くないのかなと思いました。我が家もワークライフバランスを考え直して健康に気をつけようとなり、旦那に時短勤務を取ってもらって家事育児を分担し、専業主婦だった私もフルタイムで働き始めました。生きるのも仕事をするのも大変です。
- 特に経営者や管理職の意識が変わる事が大切だと思います。それに尽きると言っても過言ではない。(制度そのものは相当充実してきているのではないかと思います。)
- この件に限らず日本は本当に女性に優しくない国だと思いつつ過ごしています。女性が強くなるためには、その人にしかできない仕事を続け、経済力を身に付けることです。周囲の声など一切無視できるくらいに。
- 良い事だと思いますし、良い方向に進んで欲しいと思いますが、働き方改革がメリットばかりだと良いですが、働く一人一人が平均すると軟弱になってる気がするのが残念です。
- 基本的に女性が家を守った方が、全体的に効率がいいと思うが、それぞれの家庭の状況に応じて柔軟な対応ができるような制度はあったほうがいいと思う。
- 政治改革・風土の改良
- コロナ禍で働く体制も変わりつつあるが、結局家で仕事をすると昼食や休憩時の軽食の準備など主婦の仕事が増えるし、夫が育休も取得していたが、2人分の家事が増えて、夫は赤ちゃんを抱っこし家事はよくわからないから、結局主婦がする形になってしまい負担が増えた。家の仕事を分担するとう意識がまだない日本ではバランス作りはなかなか難しいように感じる。ただし、病院の送迎などしてもらえてかなり助かったので、会社のフレックス制度には感謝しています。
- 女性ばかりが家事育児の犠牲になっていると思う 男性は残業や出張ができるのに、子育て中の女性はそれもできない。家事、育児をして当たり前と思う男性が非常に多い。社会全体で改革すべき。
- よく言われているし耳にするが、現在の世の中の状況を見る限り絵空事、綺麗事だと思う。
- 自営だと中々、仕事を休むわけにいかないの、国からの支援が補助があったらありがたい。
- テレワークで働きやすくなった。
- 北欧などでは休んだ人のポジションで、別の人が働いてみるキャリアアップの機会になったりしているそうなので、そういう休んでも他の人のメリットになるシステムがあれば良いのではないかな。また育休などでは会社の給料負担が多く、育休者は在籍のままになるため再雇用しようとの意識も低いので、会社を辞めざるを得ない。育休中、また体調不良になっても人材不足にならないようにゆとりある仕事内容、人員配置であれば会社を辞める必要も減りそう。時短勤務は9～15時などが多いが、一個人の主婦としては午前勤務、午後家事の時間、それからお迎えくらいの余裕があると家事、育児、仕事のバランスがとれる。
- 福祉制度を今以上にもっと充実させてほしい。

- 公的な福祉の充実にも限界があると思うので、同居別居に関わらず、協力出来る周りの環境が大切だと思う。時短や有給、長期休暇など気兼ねなく取れる社会になって欲しい。復帰した時の環境も整える事が大切だと思う。
- 自宅でも仕事が出来ればいいと思う。
- 今の時代では中々、難しい課題だと思う。

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

皆さまからいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、本市の男女共同参画に関する施策を推進してまいります。今後ともご理解とご協力いただきますようお願いいたします。